

ふくしま国語塾 対面オンライン同時並行授業の詳細

【1】基本ガイド

- すべての曜日・時間帯で、「対面授業」と「オンライン授業」を同時並行実施。いわゆる「ハイブリッド授業」を行っています。ハイブリッド授業では、教室にいる生徒もオンライン上の生徒も、同時に同じ授業に参加できます。
- 教材送付等の観点から、海外からの受講はできません。
- オンライン生Bの場合、お顔の表示（カメラ）も音声（マイク）も不要です。この文書内でそれらについて言及した箇所は、あくまでもオンライン生Aについての説明です。

【2】「対面オンライン同時並行授業」における実際の画面

▼カメラ等の配置。教室にいる感覚で受講できるよう各種カメラを活用



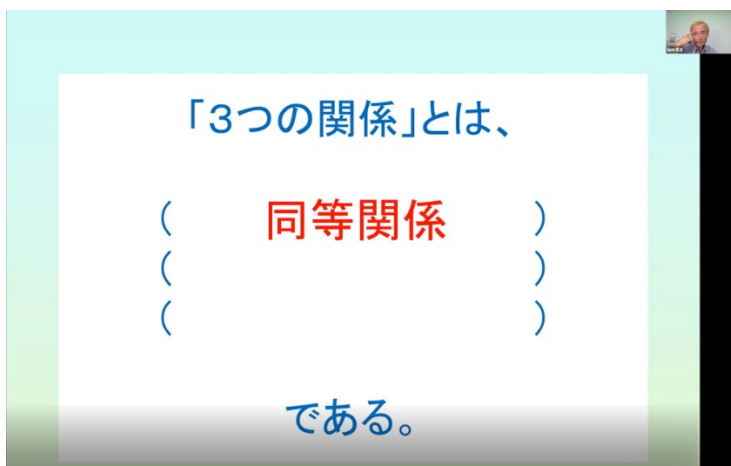
▼メインカメラ：下の画像は古いいため画素数が低めですが、現在は HD 画質です。



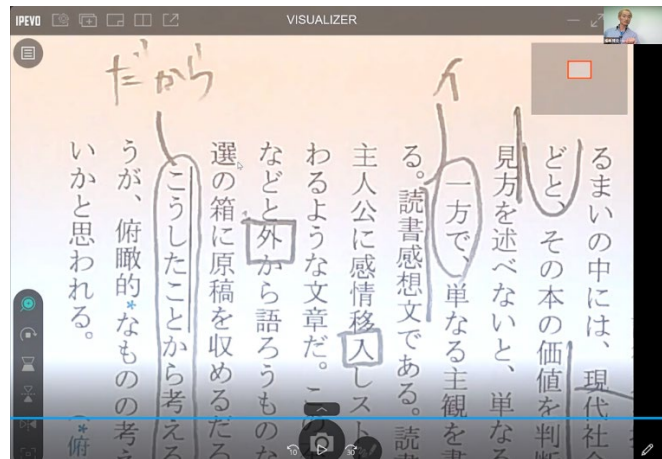
▼ノート PC の付属カメラ。オンライン生に対して特にメッセージを伝えたいときなどは、こうして顔がきっちり見えるようにして話す。



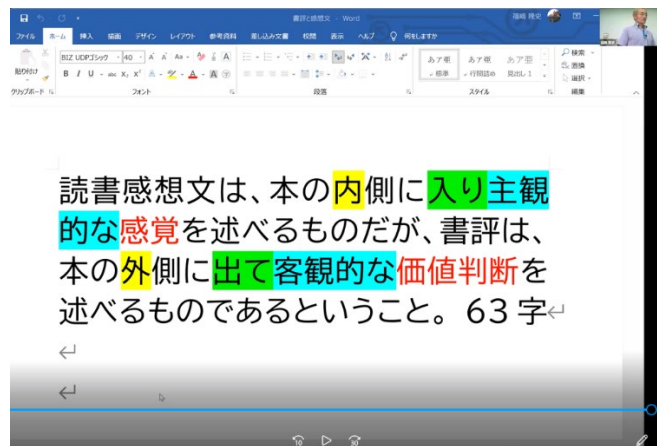
▼PowerPoint スライドを共有して再生中。授業冒頭では必ず、型・技術・方法をどのくらい暗記できているかを確認する。



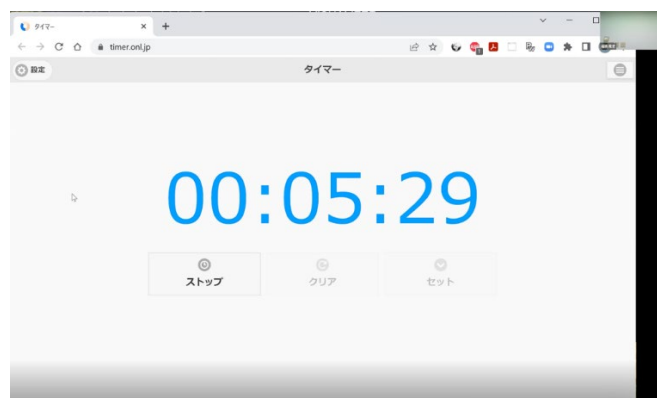
▼プリントを映した書画カメラ映像を共有中。どこに線を引くかなど、明確に指導できる



▼Word 画面を共有中。ホワイトボードに書くよりも速くきれいに整理できるので、解答例の提示などには Word を使うことも多い。教室ではこの画面がプロジェクターで映写されている。



▼ウェブ画面を共有中。答案作成に時間制限をつける場合、ウェブ上のタイマー機能を用いる。教室でもプロジェクターで映写中。



【3】オンライン受講のポイント

オンライン授業には zoom ミーティングを利用します。

オンライン環境について

- 当該曜日時間帯にパソコン（内蔵または外付けのウェブカメラ・マイクを使えるもの）をお子様「専有使用」できる必要があります。
なお、オンライン生Bの場合、カメラ・マイクは使用しません。
- スマホでの参加は極力おやめください。多くのデメリットがあります（接続が安定しない/画面が小さく文字が見えにくい/操作性が悪い/上から目線になりやすい：机の上に立て掛けたスマホで下から映すため/パケット代が高額になりうる、等）。
- タブレットは状況によりけりですが、やはりパソコンには劣ります。
- やむを得ずスマホやタブレットにする場合は、以下のような点にご配慮ください。
 - 途中で充電が切れないよう、必ず電源コードを接続する（ノートパソコンでも同じ）。接続が安定するウェブ環境を用意する。
 - Blue tooth キーボード等（例）を用意し、操作性を高める。
（オンライン生Bの場合、キーボード入力は不要です）
 - スマホ等を安定的に適切な高さで固定できる器具（例）を用意する。
- 随時送信する教材データ（PDF等）を**ご家庭で印刷できる必要があります**（プリンターと紙（A4）が必須）。多くは前日までにメール添付で送信しますが、当日の授業前*にデータを送信することもあります（*ときには授業中・授業後にも追加）。
極力、**生徒だけでもすぐ印刷できるような態勢を整えてください**。
- オンライン受講にともなう機器代・電気代・通信費・紙代等は全て生徒側のご負担となります。
- [zoom におけるショートカットキー操作一覧](#)（例:iPad をキーボードで操作するとき、Ctrl（Command）+Shift+A でミュート/ミュート解除）
- 「今ある機材」で「今だけ乗り切ろう」とするのではなく、今後も続いていくオンライン社会においてスムーズに生活していくためにも、お子様用のさまざまな機材を揃え、学習環境を向上させることをおすすめします。

個別指導について

- オンライン生 B に対する指導は行いません。以下はオンライン生 A の場合です。
- 個別指導は授業内に行いますが、時間的都合により事後添削となることもあります。
- 個別指導方法：多くはプライベートチャットのやりとりで行います（ブレイクアウトルーム*を利用することもあり/*グループ別の部屋を作る機能）。
- 答案送信方法：チャット送信のため、キーボード入力がある程度*できることが受講条件となります（*30 字のひらがなを 60 秒で入力できる程度／ただし初心者でも練習すればこのレベルはさして難しくありませんので、入塾後に練習する条件でもご入塾可能です）。
- キーボード入力練習：[参考 1](#)/[参考 2](#)/[タイピング練習ソフト](#)
- 入力が困難な長文答案は、ノートを撮影しメール添付で事後送信します（可能であれば授業中に）。ノートを書画カメラで映すという方法もありますが、集団指導であり他の生徒に見えてしまうので、多くは使用しません。

教材について

- オンライン生の場合、教材の本などは入塾時に郵送します（送料当社負担）。
- 随時使用するプリント類は、メール添付で送信します（ご自宅で印刷）。
授業直前や授業中にも印刷できるよう、極力、生徒用アドレスをご準備ください。

録画について

- 全ての授業を一時的に録画し、授業後（当日か翌日）、当該枠に在籍する全生徒（通塾生・オンライン生 A・B）に対し録画リンクを送信します（翌週の同じ曜日時間帯の授業前までの間、視聴可能）。zoom クラウド上での視聴となります。
- 生徒側で録画することはできません（ビデオカメラなどによる間接的録画も厳禁）。

セキュリティ等について

- 入室者は「待機室」を経て入室します。
- 読解問題を解く、文章を書くなどの作業を一斉に課す場合も、対面授業と同様、授業中に行います。その間は、ビデオを停止し、ミュートにしておくことができます（接続自体は続行してください）。
- バーチャル背景は生徒の姿をとらえられないことが多いので、原則禁止です。

zoom ミーティングへの参加方法

- 定期ミーティングとして設定した URL (及び ID/パスワード) を、毎月メールにて一斉に通知します。生徒用アドレスがある場合はそちらのみに送信し※、ない場合は保護者様のアドレスに送信します (※小学生の場合は保護者様にも送信するケースがあります)。

オンライン受講の注意点

- 顔が明るく映るようにしてください (顔の前に照明を設置してください)。zoom には[照度調整機能](#)もあります。



- 学校の教室において、黒子や仮面で表情を隠したまま授業を受けることがないのと同じように、オンラインでも照明を必ず設置してください。恥ずかしいから明るく映したくない、などという理由は認められません。
- 顔がなるべく正面から映るようにしましょう (顔の下側から撮影した映像は、相手から見れば「上から目線」になります)。
- 話すときは、カメラを見るようにしましょう (相手と目線が合います)。ついパソコン画面を見てしまいがちですが、カメラを見ることを忘れずに。
- リビングなど、家族の方の話し声が入ってしまう場所ではなく、生徒個々の部屋など、静かな環境で受講してください。ミュートを解除するたびに、生徒本人とは違う声が聞こえるケースがあります。他の生徒に対しても迷惑になりますので、ご協力ください。
- 姿勢よく受講できるよう、デスクに向かって受講してください。「床に正座して座卓で」「リビングのソファに座ってリビングのテーブルで」などというのは、おやめください。

- ご自宅以外の場所で受講してもかまいません*が、会話がスムーズに行える静寂な場所で受講してください(*事前に必ずご相談ください)。また、不特定多数の人が容易に画面を覗き込める(あるいは音声を聞ける)ような状況での受講はお断りします。
- 遅刻が予想される場合は、必ず事前に連絡してください。
- オンライン生Aは、授業に関する質問や、学校・他塾のテスト*についての相談を通塾生と同様に受けます。授業終了前に声をかけてください。他の生徒が退出したあとで質問を受けます。(*頻度にもよります/指導の必要の有無は最終的に当方で判断します)

【4】Q&A

Q: 親は見学できますか。

A: ご見学は可能です。ただし、いくつかご注意いただきたい点があります。

見学ご希望の場合は事前にメールにてその旨お知らせください。一般に、教室で行われる対面授業をご参観の場合は当然、事前にその旨お知らせいただくわけですが。指導者も生徒も知らぬ間に生徒の背後に誰か分からない人が立っていてじっと見ている(聞いている)、ということはありません。その場にいる人達(指導者及び生徒たち)には、「誰が見ている(聞いている)のか」を知る権利があります。

オンライン授業もあくまで授業であり、公的な場です。オンライン授業も、教室で行われる授業とさまざまな点で同一であるとお考えください。教室の授業で不自然と思えることは、オンライン授業でも不自然です。

ところが、オンラインとなるとどうしても、生徒の横でずっとお母さんお父さんが授業を見守っている(聞いている)、しかし指導者も他の生徒もその存在に気づけない、というケースが散見します。生徒たちも、他の生徒の保護者が陰から黙って見ている(聞いている)かもしれないと思ったら、よい気持ちはしません。授業という公的な場を、たまたまご家庭の室内で視聴可能になっているだけであるということをご理解いただき、はっきり事前にお知らせいただきますようお願い致します。

もちろん、対価を支払っている保護者様には授業を見る権利があります。「見るな」ではなく「見るなら知らせてほしい」ということです。

しかし一般的に考えて、終始近くで保護者様が視聴しているというのは、教育上好ましいことではありません。お子様の立場からしても、終始“監視”されているのは嬉しいことはありませんし、身につくものも身につかなくなります。入塾後の1,2回だけ様子を見ていただき、そのあとはお子様1人で受講するようにしてください(入塾後の1,2回について

は、事前にお断りいただく必要はありません)。他の部屋から聞き耳を立てるのもご遠慮ください。聞こえてしまうならば音量を下げる、あるいはお子様がイヤホンを使うなどしてください。

ご見学ご参観の際も、ヒントを与えたり答えを教えたりといったことは厳にお控えください(操作面のアドバイス等は可、その場合も「やってあげる」のではなく「やり方を教える」ようにしてください)。

なお、外部からカメラや録音機器で授業を記録することは厳禁です。実際の授業がそうであるのと同じです。兄弟姉妹が陰で黙って一緒に受講する、というようなことも厳禁です。ご希望の場合はきっちりご入塾ください。発覚した場合は対価の請求、あるいは法的措置を講ずる場合もあります。